

台風と水害 — 命を守るために知っておきたいこと



10月は、一年の中でも**勢力の強い台風**が日本列島に接近・上陸しやすい時期です。2019年の台風19号では、河川の氾濫や内水氾濫により 約3万棟が浸水、100名を超える方が犠牲となりました。
「自分の地域は大丈夫」と思っていた場所でも堤防が決壊したり、ハザードマップに載っていない場所で土砂災害が発生するなど、多くの人が想定外の被害に見舞われました。



浸水の危険

都市部では下水の排水能力を超える「内水氾濫」が発生しやすくなっています。



土砂災害

警戒区域外でも発生するケースがあり、「地図に載っていないから安全」とは限りません。

現在の避難情報は「5段階の警戒レベル」で示されています。
特に重要なのはこの2つです。

レベル4：避難指示 → この段階で必ず避難！

レベル5：緊急安全確保 → すでに災害が発生、避難は危険。今いる場所で少しでも安全を確保

「レベル5を待ってから避難」では遅すぎます。

行政からの情報に加え、気象庁の「キキクル（危険度分布）」を活用して、自分で状況を判断しましょう。



気象庁 キキクル

自らの判断で、命を守る行動を

避難情報は地域全体に向けて発令されますが、

実際の危険度は一人ひとり異なります。

「行政が助けに来てくれるだろう」と考えてはいけません。

大切なのは、「助けてもらう」ではなく「**助かるために自分で動く**」ことです。

高齢のご家族やお子様の避難は早めに

避難所が使えない可能性も想定して、親戚や友人宅、ホテルなども候補に
自宅2階・3階での一時避難も検討を（垂直避難）

✓ ハザードマップの確認

ご自宅、職場、それに通勤ルートも忘れずに確認を。

✓ 避難先と連絡方法の共有

家族・職場での緊急連絡先とその方法を確認しておきましょう。

✓ 警戒レベル4までの早めの避難

警戒レベルを正しく理解し自らの判断で行動しましょう。



浸水や土砂災害のリスクは誰にとっても「他人ごと」ではありません。

早め早めの行動を心掛けましょう！

警戒レベル4 避難指示で危険な場所から避難！

